十五日刊
磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日）休刊

平地方の銀行業
自衛上金利引下か
舊盆の決濟期に入つて
預金增加の傾向

平町附近の金融狀況は舊盆の決濟期に入り乍ら異常の緩慢振りで資金の需要減退し却つて預金の增加の變態狀況を示してゐるは昨年來の不安が漸く除かれたに原因するらしくこの分では本月末の秋繭期に入れば一層增加を見込まれてゐるが一方貸出しは自己警戒による金利高と事業界不振によつて益々減退の模樣あり結局貸借のバランス愈々不權衡となり今週末の懇談會では貸付利率の引下げか當然話題に上るらしく去る三月の全國的預金利引に例外を認めて貸出利率引下げを保留した平地方銀行家も愈々自衛上引下を斷行する機運を生ずるに至つた。

水不足に刺戟され
水道計劃具体化す
入山炭礦で決意
工費十八萬圓　三分の一湯本町負擔

月余に亘る旱天續きから水飢饉立て運動をなし來つたが磐城銀に襲はれた石城郡湯本町では平町に對して一日三十五石位宛の給水を申込むに至つたがこれは入山炭礦が同町の地下を採掘した結果水脈が完全に絶たれ湯本町は勿論附近一帶飲み水は全部濁水したので同町では先に入山炭礦に交渉の末數年前入山より補助を受け同町に三個の給水タンクを設け同時に磐崎村湯長谷方面より飲料水を引いて急場を凌いで來たが、この苦い經驗から一同町民は上水道敷設計劃を行の休業の影響を受け右計劃は遂に沙汰止みとなつた、しかし入山炭礦の全從業員も湯本町民同樣飲料水には毎夏苦しんでゐることゝて會社側でも上水道敷設を計劃し經費が巨額に達するので今迄は二の足を踏んでゐたが水不足はます〳〵甚しくなり會社側も茲に斷然敷設することに決意した。經費十八萬圓、內三分の一は湯本町負擔とし水源地を好間川に求めることゝなり近く着工の運びに至つたが、これによつて何十年振りかで水飢饉より救はれることゝなるわけである。

販賣利用組合に
中傷宣傳

大浦村信用組合經營にかゝる大浦農業倉庫では過般貯藏繭一萬二千圓が紛失し問題を起した事既報の如くであるが、石城郡各村に於ける繭買人はこの問題には石城販賣利用組合も關係してゐたゝめ同組合の經營は最近危機に瀕してゐると養蠶家に對して虛構の宣傳を試み組合を攻擊してゐるので、之を知つた組合では十五日各町村に對し聲明書を發送した。

▲宗教講演會

平町救世軍では十八日、十九日兩日午後八時から新任東北聯隊長張田中校を招き宗教講演會を開くと。

四倉繭市場の
相場をラヂオで放送
愈々二十七日から開場

四倉市場は來る二十七日から秋繭取引を開始し十月十五日迄繼續する筈であるが、總取引豫想は五萬貫で開期中は毎日の相場を仙臺放送局からラヂオで放送する事になつた。

藝妓になりたい娘

小名濱町字北町小野清次郎三女（十六）は去る四日夜無斷家出し所在を晦ましたので同家では八方行衛を搜索中であるがきく子は常に藝妓になり度いと口癖に語つてゐたので山形方面で藝妓になつたものと思はれる。

火藥を盜む
磐炭坑夫捕はる

茨城縣那珂郡國田村生れ當時內郷村大字宮字竹の內居住磐城炭礦坑夫傷害前科三犯田尻進（三五）は昨年二月中炭礦から火藥三百匁、ダイナマイト九十二本雷管五十六本を窃取し自宅に隱しておいのを平署小山田、桑原兩刑事に發見され檢擧された。

盆――が――來――た
踊れ、踊れ、夜明し踊れ
名物郷土のジャズ

□

盆が來た、若人が、初秋の夜を踊り明かす盆がきたのだ。ゆるやかな太鼓の音が、闇をつつてきこゆる、磐城名物「ジャンガラ」念佛の練習太鼓だ

□

特別な地方色を帶びた磐城ヂャンガラ念佛は、あの變轉極まりない太鼓の調子、ジャズの曲想にも劣らないあの鐘、そして其の中に一抹のゆるやかさを漂はせる「ナンマンダ――」の囃し、之を創設して今日までも傳へたのは彼の石城郡大浦村の出身で一代の聖僧とうたはれた祐天上人ださうで、このヂャンガラは歷史的に見ても研究的價値がある。

□

揃ひの單衣に各部落から平町を中心に繰出して來るヂャンガラの一隊は新盆の家を順次に廻つて念佛を踊る、之を見物する者で舊十三日から十六日までは往來は身動きもならない程の雜踏である。

□

華やかな歌詞の中に言ふに言はれない捨鉢的な氣分を持つ常磐獨特の炭礦節、それに石城郡特有の盆踊りと歌、ヂャンガラ念佛の三つが織りまじつて磐城盆の行進曲が出來あがる、舊盆の磐城は正に別天地が生れたやうに變るのである。

□

平町は古くから街の中央に焚火をする習慣で、道路の眞ん中に最高三尺の限度で薪を積み午後七時から一齊に火をつける、黑煙は天を焦がさんばかり、松火の光りは不夜城を現出する程……。

炭礦勞働者の
休憩時間は少ない
而も極めて不規則だ
其筋で調査の上改善

石城地方鑛山勞働者の最近に於ける作業時間はその筋の調査によると坑內九時間三十九分で坑外は十時間二十一分となつてゐる。而して之を他の工場勞働者時間は最も短かいわけであるが休憩時間を見ると五十九分で他の坑の勞働者の一時間四十三分に比べると非常に休憩時間が少なくなつゐる、而も他の勞働者は作業並に休憩時間が監督制度その他の完備によつて一般に規則的に實施されてゐるが、炭礦方面は比較的不規則であつてその上坑內外の休憩時間が殆んど差異のないのは將來研究を要する問題であるとし近く改善される事になつた。

舊盆を控へて
砂糖麥粉增加
平驛の貨物

平驛に於ける七月中の貨物取扱狀況を見ると、到着は合計二萬九百九十噸で其の主なるものを擧げると木材八百九十六噸、石炭八百九十六噸、砂利五百三十七噸、セメント二百二十六噸、肥料二百四十五噸、製鐵品三百九十一噸、米二百四十四噸、砂糖百三十一噸、小麥粉百四十八噸、塩三百噸等であつて砂糖、麥粉等の多いのは盆用として仕入れを見た結果增加したもので木材、砂利、セメント等は平町に最近大工事がある爲め之が材料として移入されて來たものである、次に發送は合計六千四百八十一噸で到着に比較して一萬四千五百噸の減であるが、發送した主なるものは木材、石炭、砂利等で、それも到着よりも噸數が少い、此の發送が到着より少いのは平町が生產地でなく商業地即ち消費地である爲めで、例月に比し到着が特に多いのは舊盆を控へて各商店其の他が仕入をなした關係であると見られてゐる。

途上通信

渡歐の途上に在る木村代議士から左の如き通信があつた。

碇泊の時間を利用し福岡（博多）大宰府を訪ね明日は亦上海に上陸、萬國的と言はゝ市街を視察、更に午後蘇州に至り二千五百年の歷史ある市街を見、寒山寺塔にも參拜、日本旅館の繁廼家に投宿、本日午後二時半出帆。各位に宜しく。（八月六日）

蘇州にて　木村清治

▲僧侶を毆る

好間村字北好間字權現堂大平清（三五）は去る五日午後九時半同村藥師寺の祭典で世話人が住職白水賢隆氏の慰勞の宴會を催ほしてゐた處へ泥醉して暴れ込み器物を投げつゝ住職を毆打したので居合せた双葉郡龍田村高太長光（五二）が取り靜めんとした處却て暴行を働らき傷を負はせたので高木は十四日大平を相手取り平署に傷害の告訴を提起した。

平町紺屋町
吉田眼科醫院
電話六八番

踊りの事で警察騒ぎ

飯野村大字南白土字新澤農業若松幹男(二九)は去る十日夕刻同字鎮座地藏尊に於て青年三十余名集合ジャンガヲ念佛踊りの稽古中大鼓の叩き方の事から同字志賀亜助(四五)と喧嘩を始め拳で亜助の顔面を毆打し頭部その他にも負傷せしめたので平署で關係者取調中である。

季節 鳥料理 御柳川
舞子丼
仕出しは迅速配達致します
平町南町平館隣り
鰻 蒲燒 魚榮
電話四二〇番

時報文藝

怒れる好間川

川島會山

靜かに淸く
さら〳〵と
若葉靑葉の影も
ゆるやかに
川原に咲き誇る
月見草も
水邊に遊ぶ鳥も
喜びの聲をこめて
流れてゐた
それが〳〵……
連日の豪雨に
惡魔と變じ
いたいけな稚樹も
石垣も橋も
總てのものが
怒れる流れに
崩され消えてゆく
あゝ恐ろしき
自然の試練よ。

大提燈
內提燈
岐阜提燈
變型提燈
算盤の桁を外づして廉賣致します・どうぞお立寄の程を
平町一丁目(日進堂隣)
いづや
電話(呼)三三六番

謹啓

永興院淨圓蝶華淸大姉新盆に相當り候處時節柄提燈其の他供物一切辭退仕り度候間此段御諒承之程願上候

昭和四年八月九日

永山和平

父乙三郎儀新盆に相當り候へ共時節柄提燈其他一切の供物御辭退仕度候條何卒不惡御諒承被成下度以紙上申上候也

平町搔揖小路

阿部政右衛門

父喜代松儀新盆に相當候へ共時節柄提燈其他供物の御惠與一切御辭退仕り度此段御諒解願上候

平町一丁目十四番地

柏原喜八郎

亡父新盆に相當り候處時節柄提灯其他の供物一切辭退仕候間何卒不惡御諒承奉願上候

平町三丁目

小島彌三郎

平町六丁目橋際

木村外科醫院

電話三〇九番

亡母儀新盆に相當候へども時節柄提灯その他供物の御贈與一切御辭退申上度此段以紙上御諒解願上候

平町南町

電話一七〇番

大和田醫院

平町一丁目

飯田近治

御中元御贈答品には
贈るに御便利受けて御重寶な
三井の商品券
三井吳服店

貸家案內

白銀町 商店向 二十圓
仲間町 勤人向 五圓五十錢
同 勤人向 四圓五十錢
同 勤人向 七圓五十錢
同 勤人向 十圓
同 柳町 七圓五十錢
鷹匠町 五圓五十錢
同 十圓
同 五丁目 金五圓
內郷村小島同 八圓
白銀町 加藤營業所

更新の意氣滿天下を壓する我等の快男子が面目

郎次時掛醫

名篇 舊十三日替十三日より五日間晝夜二回公開

巨星大河內傳次郎・復歸第一回快心の大傑作

名優澤正が最後の演出となれるなり至り傳次郎が憤然と記念すべき心血を注げる畫

原作 長谷川伸先生 監督 辻吉郎

助演者 酒井米子・葛木香一・尾上桃華・中山介次郎

◆松竹作品林長二郎主演映畫の白眉

吹雪峠 全

千早晶子・關操・助演

◆淺ましき人の世の姿を描いて盡す……湧き出る痛ましき哀調の劍と戀の繪卷……

說明 林樂遊

帝劇ソプラノ名花

齊藤美奈子嬢

獨唱・沓掛小唄・紅屋の娘

◆日活作品各社競映榮冠遂に大日活の手に

◆親に對し私し達がどんなに孝行しても親達が私し達に與へてくれた聖愛から見る時あまりにも小さいものではある……

紅屋の娘 全

瀧花久子・一木禮二主演

說明 若月柯村

入場料 二等席大四〇・小一〇 日活松竹 一等席大五〇・小二〇 特等席大六〇・小三〇

平館 電四六六